一般質問

主な質問と答弁

電話リレーサービス
制度及び適切な対応方法
積極的に周知と徹底を図る

西　智
市民クラブ
藤沢

質問 **耳の聞こえない人と聞こえる人を電話で双方向につなぐ電話リレーサービスが令和3年7月から公共サービスとして始まった。市役所の電話対応において、聴覚障害者が本サービスで電話をかけた際に、本人確認を理由に案内できないことがあれば、その課題を整理し、対応策を考え、その差をなくすべきと思うが、市の見解を聞きたい。**

答弁 本市職員に対し、電話リレーサービスの周知徹底ができていないことから、個人情報保護を理由に、対応に差が生じている可能性がある。通訳オペレーターを介して本人確認ができるかにより、判断することになると考えている。本サービスの周知徹底を図るとともに、実際の運用や様々な事例を検証しながら、職員一人一人が、適切に対応するよう取り組んでいく。

質問 **電話リレーサービスを広く市民に知っていただくことが大切だと考える。特に地域の商店や飲食店などにも知っていただく必要があるが、考えを聞きたい。**

答弁 広報ふじさわやホームページなどで周知するとともに、福祉部・経済部が連携を図りながら、地域の商店や飲食店などに対する周知も積極的に進めていく。

市職員と民間事業者に対する電話リレーサービスの周知を

事業者のデジタル化
業界動向の把握に努める
市内経済の底上げを

山内 幹郎
日本共産党
藤沢市議会
議員団

質問 **デジタル化による経済発展と情報格差是正は、一体の問題と考えている。藤沢市市政運営の総合指針2024の基本目標のうち、地域経済を循環させる、健康で安心な暮らしを支える、という二つの目標における情報共有とIT技術の活用について、市の見解を聞きたい。**

答弁 現在、あらゆる産業が高齢化や後継者不足などの課題に直面しており、先進技術の活用による事務負担軽減や業務効率化が必要不可欠となっている。また、デジタル技術の革新が急速に進む今日、事業者のデジタル化は、業界・経済団体による導入支援や、事業者間取引における必要性の高まりとともに進んでいくものと捉えており、今後DXの流れは一段と加速するものと認識している。

本市では、生産性向上に寄与すべく、設備導入特別資金といった融資制度や、先端設備等導入計画の認定による税の優遇措置などの支援を行っている。市内中小企業等のさらなるデジタル化推進に当たり、業界動向の把握に努めるとともに、経済団体とも連携し、市内経済全体の底上げにつなげたいと考えている。

児童生徒の通学支援
課題の把握と解消を

平川 和美
藤沢市
公明党

質問 **安全な通学環境の確保のためにバス通学をしている児童生徒の通学路には、トラックが多いが歩道のない区画があり、子どもだけでは危険であると聞いている。ハード・ソフト両面の支援が必要だが、教育委員会の見解を聞きたい。**

答弁 通学路上の危険について、保護者の不安感は理解している。解消に向けて歩道設置等の工事に取り組んでいるが、用地取得に伴い一定の期間を要する。

路面標示などハード面の安全対策のほか、交通取締りやスクールガードリーダー等による見守りといったソフト面の安全対策などの徹底に努めている。

通学区域の見直しを行っても解消が図られない場合は、通学支援について検討したい。

質問 **通学方法は、自転車通学についても学校により対応に差があると保護者から声が上がっている。**

責任を持って地域の状況を把握し通学支援をしていくべきと考えるが、教育委員会の見解を聞きたい。

答弁 子どもの将来が生育環境によって左右されることのないよう、学びに向けた環境を整えることは責務と認識している。

通学に課題のある地域の要望については、その解消が図られるよう努めていく。

藤沢駅南口の再整備
大規模な公園広場を

清水 竜太郎
民主・無所属
クラブ

質問 **駅前は街の玄関であり、顔だが、都会では車に占められ、どこでも同じ風景だ。これからの時代、駅前は人や自然が優先される場所に変わるべきだ。**

藤沢駅南口には一定の空間があるが、どう活用するかは駅周辺の再生にとって決定的に大事だ。5年前の一般質問で提案したように、緑と芝生に囲まれた大規模な公園広場を造るべきだと考えるが、市の見解を聞きたい。

答弁 藤沢駅南口駅前広場の在り方については、藤沢駅南口駅前広場再整備基本計画（素案）を報告した令和3年2月の藤沢都心部再生・公共施設再整備特別委員会や、その後実施したパブリックコメントにおいて、南口駅前広場の空間構成などについて、様々な意見・要望を受けている。

その中では、広場内への一般車の流入動線の検討や、より進んだバリアフリーへの対応、緑豊かなにぎわい空間の創出など、取り組むべき検討課題が明らかになったことから、現在、基本計画（素案）の見直し作業を進めている。

藤沢駅南口周辺は多くの検討課題と可能性を有する

大規模な公園広場の設置は、限られた空間であり困難であるが、人がくつろげる場など人が中心の空間づくりは重要であることから、広場空間機能についても検討していきたい。

駅前バリアフリー対応
官民連携した取組を

井上 裕介
市民クラブ
藤沢

質問 **藤沢駅南口直結の商業ビルがリニューアルされた。しかし、スロープ等がなく、バリアフリー化が行き届かず、車椅子の方などが入れないところがあると当事者から意見をいただいたが、市の見解を聞きたい。**

答弁 駅周辺の商業ビルについて、平成6年以前に建設された建物はバリアフリー化が不十分で、駅や公共施設がつながる商業ビルとの出入りに際して、障がいのある方などに不便をかけていると認識している。

質問 **官民連携したまちづくりを進める中で、現状は明らかに協議が不足している結果であると思う。行政としてできるところは早期に対応していくべきと考えるが、市の見解を聞きたい。**

答弁 民間ビルの新築や改修等に当たっては、法規上、用途変更が伴わない場合は、協議対象とならない。このため、藤沢駅前街区における民間施設の建て替え等について、基本的ルール等を定める藤沢駅前街区まちづくりガイドラインの策定作業を令和2年度から進めている。新築、改修、改装などについても、届出を義務づけるなど、庁内の横断的連携と官民連携の仕組みづくりについて検討している。

現状への早期対応として、小田急改札前エレベーターは今年度更新を行っており、そのほかの昇降施設については設置を検討していく。

外国籍の児童生徒
多様な文化の尊重を

永井　譲
民主・無所属
クラブ

質問 **外国籍の子どもへの配慮や、多様な文化を尊重することは必要と考える。母語や母国文化についての配慮の必要性について、教育委員会の見解を聞きたい。**

答弁 日本語指導の必要な児童生徒に対して、異文化や個性を尊重することへの配慮は重要である。

当該児童生徒に対しては、可能な限り、母語の話せる日本語指導員を派遣して支援を行っており、学校では、母国文化や習慣に触れる機会をつくり、互いを理解できるようにすることで、安心して過ごせるような環境づくりをしている。

加えて、小学校においては、国際理解協力員による授業などを通して異文化への理解を深めている。

質問 **小中学生に相当する就学していない外国籍の子どもの状況をどのように調査しているか、また今年度の結果について聞きたい。**

答弁 学校が各家庭に対して手紙の送付や戸別訪問を実施し、所在不明の場合、教育委員会が東京出入国在留管理局へ出入国記録の照会や現地調査を行っている。今年度は、把握できない14人のうち、出国や転出の確認が取れない5人について現地訪問を行ったところ、保護者全員に面会ができ、就学状況の確認が取れた。

391街区の建て替え
ガイドラインの策定を

吉田 淳基
ふじさわ
湘風会

質問 **藤沢駅南口の391街区の建て替え、再開発について、中心市街地である藤沢駅前にふさわしい魅力的な施設を期待しているが、現在の協議状況及び想定スケジュールを聞きたい。**

答弁 建て替えについては、事業者発意による都市計画提案制度の活用が検討されており、建物用途を商業・業務・ホテル等とすることで検討している。あわせて、駐輪場整備等の施設計画が検討されている。本市としても容積率の緩和など、支援策の検討を進めている。

令和4年度から都市計画手続きを開始し、5年度以降に事業の組合設立の認可、その後、権利変換計画認可、解体を経て、新築工事の着手が予定されている。

質問 **藤沢駅前には老朽化した民間施設が数多くあり、建て替えに向けた検討がなされていくと思う。まちづくりの指針となるガイドライン策定作業の検討状況と見通しについて聞きたい。**

答弁 想定される整備の在り方とともに、市として駅前空間の在り方を示した上で、官民連携したまちづくりの実現に向けたガイドラインの策定に取り組んでいる。今後、支援策等について、条例の改正や許可基準等を見直すとともに、必要な作業を進めていく。

藤沢の中心にふさわしい391街区の建て替えが協議されている